

2年2組 国語科学習指導案

日 時 平成23年11月1日(火)第5校時

場 所 2年2組教室

授業者

1. 単元名 音読げきをしよう
教材名 「お手紙」 アーノルド＝ローベル作

2. 指導の立場

(1) 教材観

本教材「お手紙」は、かえるくんとがまくんの二人の登場人物を中心に、場所や時間の移り変わりがはっきり描かれた作品である。手紙を一度ももらったことがないと言って悲しい気持ちになっているがまくんを心配したかえるくんが、がまくんに内緒で手紙を出し、一緒に待つ話である。手紙を待ち続け、寂しさに心がいじけてしまうちょっぴりわがままで自分勝手ながまくんと、一生懸命相手に優しい言葉をかけるかえるくんの温かい友情を読み取ることができる。がまくんとかえるくんの会話を中心に展開し、作者の手による表情豊かな挿絵が添えられた作品であるため、子どもたちには親しみやすい。こうした会話と挿絵を効果的に活用することで、登場人物に共感し、想像を広げながら読み進めていくことができると考える。

そこで、本教材の学習では、豊かな想像を広げて物語を読み進めるために、挿絵を活用したり、動作化をしたりする。また、単元のゴールには会話の多い作品の特徴を生かして、「1年生を招待して音読劇の発表会をしよう」という目的意識や相手意識をもつことで、音読に意欲的に取り組むことができると考える。

場面分けは、音読劇という言語活動をするために、「〇〇くんの家」という「場所」に着目して3場面に分けて学習を進める。

① がまくんの家

①お手紙がもらえないがまくんの悲しみにかえるくんが共感する場面（挿絵①②）

② かえるくんの家

②かえるくんががまくんに手紙を書き、かたつむりくんに配達を頼む場面（挿絵③）

③ がまくんの家

③かえるくんががまくんを励ましながら、手紙を待つ場面（挿絵④⑤）

④かえるくんが手紙のことを打ち明け、がまくんが驚き、感動する場面（挿絵⑥）

⑤玄関に出て、二人で手紙を四日間も待ち、やっと手紙が届いて、がまくんが喜ぶ場面（挿絵⑦）

文章構成は簡潔で分かりやすく、また、作者自身が描いた挿絵が、かえるくんとがまくんの心の動きを読み取る際に、とても重要な役割を果たしている。二人の動作や表情などを理解する助けとなり、場面の様子を豊かに想像する手がかりとなる。

(2) 児童の実態

男子17名、女子19名、計36名の学級である。授業中の発言の様子は、進んで話したいという意欲のある児童は多いものの、大きな声で最後まで言えなかったり、小さい声になってしまったりする児童も少なくない。聞くことについては、相手の顔を見て聞くことが十分でない児童が数名見られる。

物語教材としては、2年生になってから「ふきのとう」「スイミー」などで、場面の様子や登場人物の心情について、話に沿って読む経験をしている。役に分かれたり、動作化したりしながら、場面の様子を思い描き、想像を広げながら読もうとすることができるようになってきて、吹き出しなどに書き表すことにも慣れてきた。しかし、場面の様子などを想像する際に、言葉や文に着目して考えることや、読み取った内容を自分の言葉で話すことは十分ではない。

アーノルド＝ローベルの作品を使ってレディネステストを行い、次のように児童の実態をとらえた。

- ・誰の会話文かほとんど分からない児童が4名いる。全問正解は10名だけであった。
- ・会話文から登場人物の様子や気持ちを読み取れる児童が少ない。登場人物の様子や気持ちをどこから読み取ればいいのか分からない児童が8名いた。
- ・登場人物の様子や気持ちは分かるが、なぜそういう気持ちなのかという根拠が分からない児童が半数ほどいる。

そのため、誰の会話か分かるように、会話文の上に登場人物を表すシールを貼ったり、かえるくんとかまくんの役割読みや動作化をしたりと、心情の変化を視覚的に捉えやすくする工夫をして、丁寧に学習していく単元指導計画を作成した。

また、レディネステストと観察の結果を机列表に記し、授業中での児童の変化をその上に記入することで、児童のつまづきを意識して、適切な指導・援助ができると考えた。

(3) 研究内容との関わり

【研究内容①児童の実態に応じた個人追究のさせ方、指導方法の工夫】

言葉に着目して登場人物の心情を豊かに想像することができるために、挿絵を活用したり、動作化を入れた役割読みをしたりする活動を行い、登場人物の心情をたくさんつぶやくようにする。その上で、想像した心情と文章の会話文と様子を表す言葉とをつなげていく。さらに、気付かせたい大事な言葉や表現について取り上げることで、言葉に着目して心情を読み取る力をつけていきたい。

児童は、これまでに「かぎかっこ」「したこと」「さしえ」「まわりのようす」「くりかえしのことば」などを「読みのポイント」として大事な言葉を見つけ、登場人物の気持ちを読み取ってきた。しかし、文章の中から大事な言葉を選んだり、その言葉から想像を広げたりすることは十分ではない。

本時は、「読みのポイント」を「かぎかっこ」と「さしえ」の2つを重点にすることで言葉に着目する力を付けていきたい。大事な言葉である「きみが。」「ああ。」「とてもいいお手紙だ。」に着目して、がまくんの気持ちの変化を読み取っていく。まず、「きみが。」に着目させて実際に声に出して言ってみたり、挿絵の表情に気付かせたりして、かえるくんが手紙を出した事実を知ったときの驚きや喜びを感じ取らせる。次に「手紙文」を掲示し、「ああ。」をどのように読むか考えていく。P5の「ああ。」の読み方との違いを考えさせることで、がまくんの幸せな気持ちを感じ取らせる。7枚の挿絵を単に場面の転換を表すものと捉えるのではなく、がまくんとかえるくんの微妙な心の動きを表す文章と同じ比重で大切に読み取らせたい。

【研究内容②練り合い、考えを深めさせるための「主発問」】

「きみが。」「ああ。」「とてもいいお手紙だ。」この三つの会話から、予想外の驚きから感激へ、そして幸せへというがまくんの心の変化が分かる。『がまくんの「ああ。」は、1場面の「ああ。」と同じなのだろうか。』という主発問を投げかけることで、1場面の「ああ。」との違いに気づき、がまくんの感激や喜びの気持ちが表れるように、「ああ。」の読み方を考えさせたい。そうすることで、かえるくんの友情に気付いて幸せいっぱいな気持ちになっているがまくんの気持ちが理解できると考える。

3 単元指導計画（全13時間）

【単元の目標】

- ◎がまくんとかえるくんの様子や気持ちを、会話文や挿絵などに着目して読み取ることができる。
- ◎登場人物の様子や気持ちが表れるように、声の大小、速さ、間の取り方、表情や身振り、登場人物の目線・姿勢などに気を付けて音読劇をすることができる。
- 受け取った人がうれしい気持ちになる手紙を書くことができる。

時数	学習のねらい	評価規準
一次	1 物語に興味をもち、一番好きなところを見つけて、感想をもつことができる。	物語に興味をもち、一番好きなところを見つけて、感想を書いている。
	2 初発の感想をもとに場面分けをしたり、学習計画を立てたりして、学習の見通しをもつことができる。	文章や挿絵から場面分けし、学習の出口を意識して、読み進めようとしている。
	3 音読劇をするために、だれの会話文であるかに注意しながら全文を読むことができる。	がまくんとかえるくんの会話を区別して音読しようとしている。
二次	4 一場面 お手紙をもらえないがまくんと、それを知ったかえるくんのようすや気持ちを読みとろう。 二人の会話文や「ふたりとも、かなしい気分」の挿絵に着目し、がまくんの悲しい気持ちを話し合うことを通して、がまくんのことを心配するかえるくんの優しさに気付き、がまくんの悲しみを受け止めるかえるくんの様子や気持ちを読み取ることができる。 ◇読みのポイント ・かぎかっこ ・挿絵 【主発問】 どうして「ふたりとも、かなしい気分」なんだろう。	二人の会話文や「ふたりとも、かなしい気分」の挿絵から、がまくんの悲しい思いを自分の悲しみとして受け止めるかえるくんの気持ちを読み取っている。
	5 二場面 がまくんにお手紙を書くかえるくんのようすや気持ちを読みとろう。 「大いそぎで」「とび出しました」の言葉と挿絵に着目し、がまくんに手紙を出そうとするかえるくんの気持ちを話し合うことを通して、かえるくんの優しさに気付き、がまくんを喜ばせたいとかえるくんの様子や気持ちを読み取ることができる。 ◇読みのポイント ・したこと ・挿絵 【主発問】 どうしてかえるくんは、かたつむりくんに手紙をわたしたのだろう。	「大いそぎで」「とび出しました」の言葉や挿絵から、少しでも早く手紙を届けてがまくんを喜ばせたいと思うかえるくんの気持ちを読み取っている。
	6 7 三場面1 昼ねをしているがまくんに声をかけるかえるくんのようすや気持ちを読みとろう 「がまくん」「でもね、がまくん」や「かたつむりくんはまだやって来ません」という繰り返しの言葉や挿絵に着目し、手紙を待ちわびるかえるくんの気持ちを話し合うことを通して、手紙をあきらめ、投げやりになるがまくんに気付き、早く手紙が来ないかと待ちながら懸命にがまくんを励まし続けるかえるくんの様子や気持ちを読み取ることができる。 ◇読みのポイント ・くりかえしのことば ・挿絵 【主発問】 なぜ、三回も同じような言葉を繰り返しているのだろう。	「がまくん」「がまくん」「でもね、がまくん」等、繰り返しの言葉や挿絵から、あきらめて投げやりな言葉を繰り返すがまくんを、早く手紙がこないかと待ちながら懸命に励まそうとするかえるくんの気持ちを読み取っている。

8 (本時)	<p>三場面2</p> <p>お手紙の話を聞いたがまくんのようにすや気持ちを讀みとろう。</p> <p>「きみが」「ああ」「とてもいいお手紙だ」という言葉や挿絵に着目し、お手紙をもらえたことやかえるくんが「親友」と言ってくれて喜んでいるがまくんの気持ちを話し合うことを通して、かえるくんの優しさと友情に気付き、がまくんの幸せな様子や気持ちを讀み取ることができる。</p> <p>◇讀みのポイント ・かぎかっこ ・挿絵</p> <p>【主発問】</p> <p>がまくんの「ああ」は、1場面の「ああ」と同じなのだろうか。</p>	<p>「きみが」「ああ」「とてもいいお手紙だ」という言葉や挿絵から、お手紙をもらえたことやかえるくんが「親友」と言ってくれたことを心から喜んでいるがまくんの幸せな気持ちを讀み取っている。</p>
	<p>三場面3</p> <p>お手紙が来るのを待っている二人のようすや気持ちを讀みとろう。</p> <p>「ふたりとも、ともしあわせな気持ちで」の挿絵に着目し、手紙を四日間待っていた二人の気持ちを考えることを通して、お手紙を待つ喜びやかえるくんの友情の深さに気付き、手紙が届いた時の二人の様子や気持ちを讀み取ることができる。</p> <p>◇讀みのポイント ・したこと ・挿絵</p> <p>【主発問】</p> <p>四日間、ふたりはどんなことを思っていたのだろう。</p>	<p>待ち望んでいたお手紙を受け取った二人の幸せな気持ちを讀み取っている。</p>
三 次	<p>10</p> <p>・</p> <p>11</p> <p>役割を決めて、登場人物の気持ちや二人の様子を想像しながら、音読劇の練習をすることができる。</p>	<p>音読劇の練習に進んで参加している。</p>
	<p>12</p> <p>登場人物の気持ちが表れるように、声の大小、速さ、間の取り方、表情や身振り、登場人物の目線・姿勢などに気を付けて音読劇をし、ペア班による相互評価をすることができる。</p>	<p>音読劇を見合うことで、音読のよさや工夫を学び合っている。</p>
	<p>13</p> <p>音読劇のよかったところを見つけ、相手が喜んでくれるような書き方を考えて、手紙を書くことができる。</p>	<p>音読劇のよかったところを見つけて、相手が喜んでくれるような手紙を書いている。</p>



1年生に向けて、「お手紙」の音読劇発表会をする。

4 本時のねらい

「きみが」「ああ」「とてもいいお手紙だ」という言葉や挿絵に着目し、手紙がもらえることやかえるくんが「親友」と言ってくれたことを喜んで、がまくんの気持ちを話し合うことを通して、かえるくんの優しさと友情に気づき、がまくんの幸せな様子や気持ちを読み取ることができる。

5 本時の展開(8/13)

* 人権同和教育の観点

	学 習 活 動	○指導・支援◆評価
つ か む	<p>1 前時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手紙が来ることをあきらめているがまくん。 ・3回もまどの外を見てかたつむりくんが来るのを待っているかえるくん。 ・がまくんのことを一生懸命励ましているかえるくん。 <p>2 本時の場面を確認する。</p> <p>3 本時の課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>お手紙の話を聞いた がまくんのようにすや気持ちを読みとろう。</p> </div>	<p>○掲示物を指示して、前時の学習場面を思い起こすように促す。</p> <p>○本時の挿絵を黒板に貼り、二人が何をしているかを問い、本時の課題につなげる。</p>
考 え る	<p>4 本時の学習の見通しをもつために音読をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読みのポイントを確認する。 ・かぎかっこ 挿絵 <p>5 一人読みをして、全体交流をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題につながる「がまくん」のようすや気持ちが分かる言葉に線を引き、自分の考えを書く。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>「でも、来やしないよ。」</p> </div> <p>…かえるくんは、ずっとまどの外を見ていたけれど、お手紙を待っていたんだな。でも、手紙なんて来ないさ。もうぼくはあきらめたよ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>きみが。」</p> </div> <p>…きみが書いたの。おどろいた。かえるくんがぼくにお手紙を書いてくれたんだ。じーんとした。</p> <p>挿絵のがまくんの顔</p> <p>…がまくんが起きてきた。驚いた顔をしている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>「お手紙に、なんて書いたの。」</p> </div> <p>…お手紙、うれしいな。なんて書いてくれたのかな。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>「ああ。」</p> </div> <p>…親友と書いてくれてありがとう。とてもうれしい。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>「とてもいいお手紙だ。」</p> </div> <p>…親友と言ってくれた。ぼくも親友だと思っている。</p>	<p>○課題解決のための「読みのポイント」を確認する。</p> <p>○「きみが。」は実際に声に出して言ってみたり、挿絵のがまくんの表情に気を付けさせたりして、がまくんの驚きや喜びが読み取れるように支援する。</p> <p>◆「ああ。」「とてもいいお手紙だ。」の言葉から様子を想像して、身振りや言葉を補って話している児童の考えを価値付け、広げる。</p> <p>○一人読みでの各自の考えを捉えておいて意図的に指名する。</p> <p>◆手紙の内容から「とてもいいお手紙」と結び付けてがまくんの喜びを感じ取っている児童の考えを価値付ける。</p> <p>* 言葉を根拠に自分の考えを発言できるよう、本文への立ち返りを支援する。(認識力)</p>
練 り 合 う	<p>6 主発問を把握し、練り合いをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>がまくんの「ああ」は、1場面の「ああ」と同じなのだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・1場面の「ああ」は、「手紙をもらったことがないんだ」という返事。でも3場面は、手紙の内容を聞いて、喜んでいる。 ・今まで手紙をもらったことがなかったのに、かえるくんがお手紙を書いてくれて、とてもうれしいな。 ・1 場面の「ああ」は暗く読んだけれど、3場面の「ああ」は、感動したように読むといい。 ・今まではひとりぼっちだと思っていたけれど、かえるくんのような親友がいて、ぼくはしあわせだな。 	<p>【補助発問】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで手紙をくれるような友達ががまくんにいたのか。 ○かえるくんがお手紙をくれること、「ぼくの親友」と書いてくれたことを知ったがまくんが、驚き、感激し、幸せな気持ちになっていく変化を十分想像させて、がまくんの動作化をする。
ま と め る	<p>7 読み取ったことを生かして役割読みをする。</p> <p>8 本時を振り返り、まとめを書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>がまくんからかえるくんへ かえるくんありがとう。かえるくんから手紙がもらえてうれしかったよ。かえるくんが「親友」といつてくれたので、しあわせな気持ちになれたよ。かえるくんはぼくの親友だよ。これからもなかよくしてね。</p> </div>	<p>○お面をかぶって役割読みをする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【評価規準】 「きみが」「ああ」「とてもいいお手紙だ」という言葉や挿絵から、お手紙がもらえることやかえるくんが「親友」と言ってくれて喜んでいるがまくんの幸せな気持ちを読み取っている。</p> </div>